

アントレプレナーシップ・エコシステムの土壌としてのコンファランスへの招待

2011年にスタートしたアントレプレナーシップ・コンファランスが第10回目を迎える。このコンファランスは、当時の日本ベンチャー学会の執行部、特に金井一頼会長（当時）の強い思い入れとビジョンによって始まった。国内の経営学関連分野におけるペーパー・ディベロップメント・ワークショップの草分け的存在として定着してきたのは、ひとえに経営学、経営史、経済学等の関連分野の各学会の歴代の会長や編集長クラスの先生方、関係者各位の熱意溢れるご協力の賜物である。

これまで約30本もの論文がこのワークショップによって鍛えられ、現在の各学会誌に72%（うち55.6%は採択公刊済）もの論文が審査ラウンド以上にまで到達しているという結果は、刮目してみるべきものがある。その後、日本ベンチャー学会の呼びかけに呼応していただき、企業家研究フォーラム、ファミリービジネス学会、中小企業学会の共催という形へ発展してきたこと、組織学会など他の学会においてもペーパー・ディベロップメント・ワークショップ等の開催が広がっていった経緯をみれば、コンファランスの意義と評価は明らかだと思われる。

私たちのフォローアップのアンケート調査によれば、参加者の満足度は極めて高く、単独の論文としての完成だけでなく、博士論文や書籍、もしくは複数の新しい論文への展開につながったという声も多い。学会長・編集長クラスの教授陣が複数名、丸一日近くにわたって、事前に論文の草稿（フルペーパー）を読んで優れたコメントを準備し、鍛え上げる場の素晴らしさは、筆舌に尽くしがたい。

たまたま初期の立ち上げに事務局として関わった人間の一人として、第10回目を迎えるにあたって、今後の発展を期して、次のような旗を振って新しく多くの参加者をお招きしたい。時代は移ろい、アントレプレナーシップ研究は、米国経営学会の部会の推移を引用するまでもなく、経営学の中心的な主題の1つとなった。研究活動は、広い意味で社会における制度をつくる仕事であり、アントレプレナーシップ研究の発展に献身することは、日本のアントレプレナーシップ・エコシステムの土壌を、長い目で耕す一里塚の積み重ねである。

2020年度は、コロナ禍の潮流の中で、初めてのオンラインのスタイルで2021年2月28日に開催する。オンライン型によるペーパー・ディベロップメントは、新しい挑戦に他ならない。諸賢におかれましては、学会誌投稿に向けて、そのような熱い場所に是非、お手元の原稿を、新しい声を投げ込んでいただけないだろうか。一同、コンファランスの場でお待ちしています。

アントレプレナーシップ・コンファランス運営委員長
山田仁一郎